

第4回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2025 年 7 月 28 日（火）19 時～21 時

◇方法：Zoom によるオンライン形式

◇参加者：34 名

◇内容：単元（保育）構想案の相互検討①

【ルーム 1】 ファシリテーター：阪本さゆり（奈良保育学院）、長谷川かおり（奈良教育大学）

1)中川珠紀先生(草津市立玉川こども園)

5歳児「世界一おいしい自分だけのピザをつくろう」

一人一鉢の栽培活動 世話を通して様々な学びを展開している

6 月、立命館大学留学生との交流会で、イタリアの方からピザの紹介があった

今年、創立 50 周年を記念して地域の方とともにピザ窯をつくる計画がある

→ 自分たちで育てた作物を使って、自分だけのピザを作りたい

食材の特徴や組み合わせを考え、試行錯誤する探究活動

園の近くにあるイタリア料理店の方からピザづくりについて教えていただきたいと考えている

- ・どんな野菜があるか？ → 秋ナス、トマト（ソースにも使える） など
- ・生地にも工夫させたい。地域でとれた小麦を使うなど。
- ・「自分だけの」は、自分の好きなものだけにならないようにしたい。

それぞれの野菜の特徴を考えさせながら、組み合わせを工夫させたい。

トマトソースにこだわらず、カレー味でもいい。

2)木戸香里先生(草津市立老上こども園)

5歳児「チューリップさん 春になったら出会おうね！」～持続可能な栽培活動との出会い～

チューリップは、最初は種をまいて4～5年程度太らせて、やっと花を咲かせる球根になる

5歳児の子どもと「同年齢」の球根を植えて育てることで、より愛着をもって世話をできる

栽培の土は、給食の廃棄食材でつくった再生土壌

咲いたときには小学校入学を迎える → 園の外からそのチューリップを眺めてほしい

球根は植えたときより大きくなって掘り出され、また次の年も植えられる

根や枯れた葉は刻んで土に返すと再生土になる 捨てるところが一切ない

- ・有限性？ 咲き終えたら週に一度肥料を施すことで栄養を蓄え、次年度には再度花を咲かせる。
- ・種から球根ができるなら、種を取って球根に育てる活動もできておもしろいのでは。

→ 育てた球根を地域の人に配ったりする活動もできそう。

- ・専門家でなくてもそういうことができるのかをさらに研究する必要があるかも。

3)高松美香先生(草津市立玉川こども園) 5歳児「からだの救急箱」

6月末までに、5歳児の怪我の総数54件（園内32件、園外22件）

怪我の仕方に関して感じたこと 「これ以上したら痛くなる」など先を見通してやめてしまう

怪我をした子自身が、怪我をしたことをちゃんと説明できるようになってほしい

「けがをさせない＝チャレンジさせない」になっては、子どもたちの育ちの保証にならない

体の仕組みやけがの手当ての仕方を知る けがをしたときの適切な行動の仕方

→ 「からだの救急箱」ゲーム けがの種類と手当ての仕方の種類のカードを組み合わせる

実際に使っている救急箱を見せる けがの発生場所マップを見て考えさせる

・どこで、どんなけがが多いのか、マップを見せて客観的に考えることができると思う。

→ 遊び方のルール作りにも役立つ。

・室内で走っていてぶつかることが多い。(室内で走らないことが友だちを守ることにつながる)

・チャレンジしたときのけがと、不注意によるけがを分けて考えてみるのも必要かも。

【ルーム2】 ファシリテーター：中澤哲也（大和郡山市立片桐西小学校）

1)野口雄毅先生(千葉県八千代市立上東中学校)

中学校 総合的な学習の時間・社会科・理科等

千葉県に江戸時代の山形（庄内藩）お墓を切り口に、地域の川の課題について学習していく。

行政、NPO など、地域の方の力を借りたい。

【参画】【発信】【日常】をキーワードに「ひろげる」ができればいい。

最後の行動化（自分事にするには）どうすればいいのか

・子どもたちの川の認識はどれほどか。

→泳いだりできないので、意識は向いていないと思う。

・庄内藩の工事に関わった人の子孫がいたりするといい資料があるかもしれない。

・先人の取り組みのおかげで今があるということはおさえてあげたい。

・外来水草の被害は琵琶湖にも起きていてそれを解決するための取り組みも行われている。

・ボランティアとして水草を刈る活動をしている。

・水質はなぜ汚くなったのか。

→新川の上流をつなげる工事によって、流れがよくなかったり、人口が増えたりしたことによる影響が大きい。

・何が原因で水質悪化になってしまったかを調べてみるとおもしろいかも。

2)菊池徹先生(神奈川県横須賀市立久里浜中学校) 中学校2年 社会科

「北海道地方の食料生産と持続可能性 ー再生型農業からこれからの食料生産を考えるー」

授業を通して子どもたちの北海道の印象を問い直したい。

再生型農業の取り組みを紹介する。

オンラインで北海道の農家とつながりたい。

再生型農業をおしつけるようなことはしたくない。

食料自給率を調べていくと、国が公表している物より実際はもっと低いという事実に触れさせる。

・バーチャルウォーターや、家畜の飼料に着目して、カロリーベースで伝えるといい。

・ディベートで、多角的な視点をを用いて実践すると、データを重視するようになる。

・「人」に着目することで子どもたちもより真剣になるかもしれない。

・今まで意識していなかった地域の野菜もどのように売っているかも気になるかもしれない。

・横須賀市の再生型農業に着目させてもいい。

・京都の九条ネギが温暖化で育たないので、北海道で育てる取り組みもある。

- ・アメリカ人のティムさんがなぜ北海道で再生型農業を始められたのか、「人の営み」について深めることで、より自分事として考えるのではないだろうか。
- ・北海道でも温暖化が進み、冬野菜が育たなくなっている現状もある。
- ・給食などで産する北海道産のものに着目させながら北海道を身近に感じさせる。
- ・家庭菜園をすることで、食べ物の大切さを感じられる。

3)三笠日向先生(大阪市立歌島小学校) 小学校5年 国語科

『注文の多い料理店』『見えない支配』を超えて一平和な関係を自分たちの手で作る一

目には見えない子ども同士の非対等の関係を見出し、その課題をのりこえるためにどうすればいいのか考えさせたい。

本音を言えるような関係になるためにはどうすればいいのかを考えさせたい。

最後は学校、保護者に学んだことを劇化して発表したい。

即興演劇（インプロ）を通して学級で誰でも受け入れられるような空気にしていくために取りいれている。

- ・外部講師について教えてほしい。
→前任校の教員がインプロをされていて、つながりがある。最終的な学びを外部講師に聞いてもらう。
- ・同じ場面を班でやるのではなく、全員に体験をさせたい。同じ場面を各々演じさせてニュアンスの違いを感じさせたい。
- ・国語にインプロを取り組むと、道徳や学活に思われがちだが、あえて取り組むところがすごい。
- ・インプロを通して見出だした「非対応」を見つけ出すことで、学校の中の決まり・校則を見直すきっかけになるかもしれない。
- ・子どもの「共感力」を育むために国語で物語文を扱うことが求められる。

【ルーム3】 ファシリテーター：河野晋也（奈良教育大学）

1)大畑翔平先生(草津市立志津小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間「未来に残す志津遺産～学校や地域のよさを歌にしよう」

創立 150 周年を迎えた歴史のある学校で、城跡に建っている。地域の良いところを歌にできないかと考え、構想した。キャリア教育の一環として作詞家の方がどのように歌をつくっているのかを学ぶ。歌にどんな思いを込めているのか、どのように作っているのかを考え、地域の良さを表現する歌を作詞する活動に取り組む。

授業者また学年としては、今後 100 年後にも志津小の良さを残していきたいという願いがある。また子どもたちも二部合唱の校歌を気に入っている。変わってほしくないものが何だろうという対話が生まれるとよい。実際に歌詞をつくったら、CD にしたいなどのように次の願いも出てくるのではないか。一方で、校歌の歌詞のなかには地域の良さがたくさん詰まっている。昭和 33 年のころから大切にしてきたものもたくさんあるし、60 年以上残されているものもある。それを分析することで地域の良さに目が向くのではないか。

2)岡崎美紀先生(草津市立志津小学校)

小学校6年 総合的な学習の時間「未来に伝えたい志津遺産～志津っ子体操でみんな元気！」

150 周年を迎えた志津小学校において、大切に残したいものと考え、それを体操（しずっこ体操）と

して表現することを構想する。立命館大学の学生団体の協力を得て、身体を動かす楽しさを感じさせつつ、志津小のオリジナルのシンボルなどを動きに取り入れていきたい。来年入学する5歳児さんに伝えたり、2学期には運動会で演じたりして広めていきたい。

「なぜ体操でなければならないのか」というのが見せられると強みがあるとよりこの実践の良さが際立つのではないか。実践者としては、みんなが同じ動きをするような機会、一体感をつくりたいという願いもある（全校児童が1000人以上なので、全校一緒に運動会をすることができない）。地域の高齢者の健康づくりにも生かせるかもしれない。地域の高齢者のなかには、もう学校に行くことはできないけれど卒業生の方もいるかもしれない。学校の様々な良さを表現した体操であれば、喜んでもらえるかもしれないし、子どもたちにとっては高齢者の方に合わせた体操のアレンジをするなどして福祉の学びにもつながるかもしれない。

3)中川純一先生(生駒市立俵口小学校)

小学校2年 生活科「おもちゃのえがおをまもり隊！」

身近な題材を用いておもちゃ作りをする活動をふまえ、ふかめる段階でおもちゃ病院やもったいない食器市に出合わせる。こわれたものをなおして使うという取り組みや、おもちゃ病院のお医者さんの姿に出合わせ、大切にすること、より良い捨て方など、入り口だけでなく出口も学ばせたい。

陶器市に並べたり、おもちゃ交換会に並ぶおもちゃたちはいらないから置かれているのではなく、次の人に大切に使ってほしいという思いを込めて、受け取った人が笑ってもらえるように、渡すということに気付くことができるとよい。マクドナルドではおもちゃを回収する箱を設置している。リサイクルという言葉学ぶ機会もできるが、高学年で学ぶ内容であり、2年生の学びとしては難しくなりすぎないように、気づきの質を高めるということに留意して実践を行っていきたい。

【ルーム4】 ファシリテーター：圓山裕史（奈良市立伏見小学校）

1)谷口晋吾先生(草津市立老上中学校)

中学校2年 総合的な学習の時間「OBE～老上防災 education～ 防災に強い老上をめざして」

1年生の時に、地域の避難場所や避難経路について学習し、ハザードマップを作成した

→ 実際に避難したときに困ることは何か？ 避難所生活について調べる

地域の人や防災に関わる様々な立場の人から学ぶ 大学生とともに HUG 訓練

自分たちでできること、地域の人といっしょになってやることを考える

神戸市立ふたば学舎で避難所体験 被災経験のある方からの聞き取り

→ 老上における減災でできることは？ 行動化

- ・滋賀県での過去の災害事例をもとに学ぶことも大切かと思う。
- ・避難すること自体が困難な高齢者も数多くいる。誰に対して何をしたいかという行動化の対象が定まっていない気がする。
- ・そういう意味でも避難所でのことだけを学ぶのでは不十分ではないだろうか。
- ・災害に強い地域を目指すというなら、もっと具体的な行動ができるような展開が必要か。

2)尾関大応先生(草津市立老上中学校)

中学校1年 総合的な学習の時間「老上の食の魅力を発見しよう！」

「おいしい食べ物が多い町は、住みやすい町だと思う？」

うばが餅、青花わらび餅、近江米、近江牛、草津メロン・・・

老上の「食」には、どんな魅力や課題があるかを考える

魅力はさらに生かし、課題をいかに解決するか テーマ別グループ探究

- ・うばが餅などは名物ではあるが、生徒はそもそも「おいしい」と思っているのだろうか。
歴史的背景も含め、そのものの魅力に特化して展開する方がいいと思う。
- ・うばが餅の本店が学校近くにあるのだから、使わない手はない。
- ・いくつかの食べ物を複数手分けして調べて、そこから地域の魅力につながるようにしたい。
- ・最終的に地域の魅力、滋賀の魅力につながっていくように。

3) 杉浦裕美先生(草津市立老上中学校)

中学校3年 総合的な学習の時間「老中生 三方よし OSM プロジェクト」

群馬県の草津とよく間違われる 「温泉ないの？」 「温泉ないまんじゅう」の発売

草津のアピールポイントを考える 「温泉ないけど いいところ草津」

2年生の職場体験で、ある企業から「いっしょに温泉の素(入浴剤)をつくらないか」と提案をもらう

→ 商品開発(地域のイメージから香りを考える) どういう売り方をすればいいか

パッケージのデザイン ふるさと納税の返礼品に ヨシタオルにワンポイント刺繍

- ・導入のインパクトが弱い。子どもが課題意識を持ちにくい。
- ・「三方よし」と言うぐらいだから、「売り手よし、買い手よし、世間よし」になっているのかどうかを検証すべきかと思う。購入者からのフィードバックがほしい。

4) 井上岳海先生(奈良女子高等学校)

高校1年 総合的な探究の時間「奈良で考えるネイチャーポジティブ」

1学期: 奈良の人とシカとの共生 2学期: 世界遺産から危機を防げ! 3学期: 大仏に込めた願い

奈良公園やならまちの現状について考える フィールドワーク

「奈良のシカや自然と人との関係はどのようにつくられたのだろうか?」

DEER DROP STONE プロジェクト(国広産業)・・・シカの糞の活用、販売

「古都奈良の文化財」について調べる 魅力をフィールドワークを通して見つける

危機遺産について知る → 春日山原始林は?

ビーフォレストさんとの交流 → ハチ宿づくり

- ・春日山原始林を歩かせて、「虫が少ない」と感じてくれたらいいのだが・・・。
- ・春日山原始林から花バチにつなぐところが難しいと思う。
- ・春日山原始林も花バチも、人の手を入れないと回復できないというところに焦点をあてるべき。
世界遺産「古都奈良の文化財」「危機遺産」というのはテーマから少しはずれている。